

## 輸入昆布

日本には、独自の発展を遂げた素晴らしい文化がたくさんありますが、はるか昔までさかのぼると、そのルーツを大陸に見つけることができる場合が多いものです。しかし、外国に起源を持たない完全独自の日本文化もあります。そのひとつが昆布です。近年では、中国や韓国等でも昆布を食用にしますが、それは日本の昆布文化の影響を受けて始まったものです。秦の始皇帝が「東の国に不老長寿の薬あり」と探しに行かせたものが、昆布だったという言い伝えもあるほどです。

その日本独自の昆布文化が今、大変なことになっています。

先日、中国山東省の昆布養殖を視察する機会を得ました。そこで見たものは、まさに日本の昆布生産者への巨大な脅威でした。中国の昆布養殖には、日本とは比較にならないほどの競争力があります。360度見渡す限り続く大規模な養殖設備、どこまでも広大な干場、圧倒的に安価で豊富な労働力、どれをとっても桁違いのスケールです。また、日本の家族経営的な昆布生産と違い、中国では安い労働力を背景に資本家が多く、従業員を抱え、大規模に養殖事業を手がけています。中国で昆布生産の作業をされている方々の賃金は、一日働いても500円にも満たないのです。昆布は採ってから製品化までにたいへん手間がかかり、また手間をかければ良いものが出来ますので、労働力が豊富で安い中国では品質向上への取り組みに有利です。中国の昆布は現状では品質に問題が多いものの、今後は日本の技術指導の下、品質が向上してくると思われまますので、高級銘柄地域を除き北海道の多くの昆布生産者は桁違いに安い昆布との競合を強いられることとなります。

しかし、一日500円で真面目に働く地域に太刀打ちなどできるものでしょうか。

日本の昆布業界の未来を考えてみると、残念ながら将来的には今より多くの輸入昆布が使われることになり、国内生産の比率は下がってくるのだと思います。

しかし、ただでさえ食料自給率の低い日本です。日本が誇る独自文化の昆布までも輸入に頼ることになってよいのでしょうか。自給率が100%を下回る国はたくさんありますが、先進国中では日本はダントツの最下位です。また、経済成長の著しい中国ですから、労働力がいつまでも安いままだとは限りません。農業や漁業はいったん空洞化させてしまうと、将来的に事情が変わって国内生産が必要になっても、簡単に復活できるものではありません。

消費者の方々にとって、非常に安価でほどほどの品質のものが手に入ることは歓迎すべきことでしょう。しかし、価格にとらわれ、安い輸入品ばかりが売れるようであれば、知らず知らずのうちに大切なものが失われていくこととなります。豊かな田園風景も、活気ある漁村の暮らしも、美しい山林も第一次産業が栄えてこそです。国内生産を守る意味やその背景にある事情を理解し、安全で高品質な国産品が支持されればと思います。

私どもも含めた加工販売業者には、輸入昆布を多用して北海道の昆布生産者を苦しめるようなことをしないで欲しいと思います。国内の昆布生産にも多くの問題点があり、その解決のためにも共に理解し合い、支え合う信頼関係が必要です。輸入昆布の脅威に直接さらされるのは加工販売業者ではなく北海道の漁師の方々です。安いからというだけの理由で安易に中国産を使い、国内生産者を苦しめるようであれば、良好な関係は望めませんし、生産者がますますやる気をなくし、品質が低下し、後継者もいなくなり、国内昆布産業がどんどん衰退していくことでしょう。

[裏面より]

北海道の昆布生産者には、海の向こうに巨大な脅威が存在することを自覚し、外国には真似のできないような高品質な昆布を生産していただきたいと思います。また、中国の昆布生産に学ぶところもあるでしょう。これまで家族単位であった昆布生産をできるだけ集約的にし、品質と生産性を上げる取組みが出来ないものでしょうか。また、輸入昆布はほとんどすべてが養殖ものです。日本独自の天然昆布を大切に、素晴らしい天然昆布がたくさん茂るような環境保護にも努めていただきたいと思います。

外国から日本では作れないような高品質なものを輸入して、日本人の生活が豊かになるのであれば、それは素晴らしいことだと思います。しかし、将来を省みず、一時の利益追求のために安易に輸入と走り、日本の第一次産業と伝統文化を廃れさせるようなことになれば、それは日本の真の豊かさを奪っていくことになるのだと思います。

消費者と生産者と加工販売業者が共に協力し合い、素晴らしい昆布文化を未来に残していきたいものです。



中国での昆布漁の風景です。大人数で多数の小船を使って昆布を収穫した後、母船がまとめて牽引して港へ向かいます。昆布満載で船が沈みそうですね。